



9月号
2024 No.19



中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

SPECIAL REPORT

心不全パンデミックに
地域で立ち向かう

心不全診療特集

CONTENTS

- ① Cure 病気のおはなし
- ② Cure 治療のおはなし
- ③ 地域医療を支える新しい力
- ④ 地域医療の豆知識
- ⑤ NEWS & TOPICS

Message
院長メッセージ

〈心不全パンデミック〉という言葉聞いたことはありますか。これは、高齢の心不全患者さんが大幅に増加することを意味し、西尾市でも危機感が高まっています。今回の特集では、高齢者の心不全に対する治療や地域連携のあり方について紹介しています。ぜひ一読いただき、ご家族皆さまの健康づくりにお役立てください。

SPECIAL REPORT

心不全パンデミックに 地域で立ち向かう

心不全診療特集

超高齢化社会の進展に伴い
増える高齢者の心不全に対応するために

CHAPTER 01 心不全の高齢患者さんが 救急搬送されてきて

西尾市民病院の循環器内科に、重い呼吸苦と手足のむくみを訴える80代の女性救急搬送されてきた。女性は息苦しさで動くこともままならない様子で、田中俊郎医師（副院長兼診療部長・内科系）は急いで酸素投与と利尿薬の注射、そして血液検査をはじめ、胸部X線検査、心臓超音波検査を指示した。血液検査の結果、心臓への負担を示すBNPの値が2000を超えており（BNPの正常範囲は184以下）、画像検査でも心臓の肥大が認められた。田中は心不全と診断し、緊急入院の準備を進めた。心不全とはわかりやすくいうと、心臓が血液を送るポンプとして十分に働かなくなった状態である。入院後、苦しかった呼吸が少し落ち着いた様子を確認してから、血圧と心不全をコントロールする薬の点滴治療を開始。この治療が良く効いて、女性は次第に体調を取り戻していった。また、入院中、病棟の看護師、薬剤師、理学療法士などがチームを組んで、廃用症候群（動かさないことによる弊害）を予防するために、体力の維持に努めた。その甲斐もあって、女性は活動性が落ちることもなく、2週間ほどで退院。今も定期的に通院し、管理栄養士から栄養指導を受けて、心不全の再発予防のために塩分の少ない食生活を心掛けながら、元気に一人暮らし

を続けているという。

このケースを振り返り、田中は次のように語る。「手遅れになる前にきちんと点滴治療で回復できて、本当に良かったです。また、入院時に肺炎を合併していることもわかったので、その治療も同時に行いました。この患者さんのように、心不全を発症する高齢の患者さんは、心臓そのものが弱るだけでなく、感染症、肺炎、貧血などさまざまな疾患を原因として心臓に負担が掛かり、心不全を発症することも多いんですね。一般に医師の専門分化が進んでいる大きな病院では、循環器に特化した診療が行われます。当院では循環器の医師がある程度、普段から内科全般を診ていますから、複数の疾患を抱えた患者さんに対しても適切に診断し、必要な治療を提供できます。それが、当院の強みの一つだと自負しています」

COLUMN

- 心臓疾患の入院治療に欠かせないのが、心臓リハビリテーション（心臓リハビリ）である。これは、運動療法や生活指導を組み合わせた総合的な活動プログラムで、患者さんの生活復帰と再発防止を支援するために行うものだ。
- 西尾市民病院では、心臓リハビリテーション指導士の資格をもつ医師が中心となって、心臓リハビリの取り組みをスタート。今後さらに多職種によるチームを編成し、本格的に取り組んでいく計画である。



BACKSTAGE

地域の医療機関が手を携え、在宅療養を支える大切さ

●心不全は再発しやすく、入退院を繰り返しながら、徐々に悪くなっていく疾患である。再入院を防ぎ、できる限り在宅で過ごせるように支えるには、地域の医療連携が重要である。

●普段の疾患管理は在宅診療を担う医師や訪問看護師が担い、急性増悪時は病院で入院治療を行う。そんな連携体制を強化することで、西尾市では心不全患者の生活の質を守り、看取りまで包括的に支えていこうとしている。



CHAPTER 02 退院後の暮らしを見据え、生活復帰を支援していく

世界でもトップレベルの超高齢化社会にある日本では、近年、心不全を患う人が急増。とくに、愛知県下でも高齢化率の高い西尾市では、心不全患者の多い状態がここ数年続いている。このように高齢の心不全患者が大幅に増加することを「心不全パンデミック」というが、まさに西尾市では今後、その状態を迎える可能性が高い。心不全患者のケアで課題となるのが、退院支援である。「高齢患者さんの場合、老老介護のご夫婦や、一人暮らしの方も多く、退院支援が重要になります。当院では入院早期から患者さんの背景をしっかり把握。看護師や医療ソーシャルワーカーが中心になって、どうすれば元の生活に戻るか探っていきます。また、治療後すぐに退院できない場合は、地域包括ケア病棟に移っていただき、退院準備を進める体制を整えています。このように充実した支援体制

も、当院ならではの特色だと思います」と田中は話す。

その上で、田中は今後に向けて、地域の病診連携にいつそう力を注いでいく必要性を語る。「心不全は悪化と改善を繰り返す病気ですが、だんだん悪くなっていくと入院の間隔が短くなり、一回の入院期間も長くなります。そうすると、患者さんにもご家族にも大きな負担になるので、できるだけ長く在宅療養していただけるようなサポート体制が必要です。幸い、この地域には、訪問診療してくださる循環器専門の先生がおられ、とてもありがたいと感じています。また、当院でも令和6年4月に訪問看護ステーションを開設し、在宅支援の強化に乗り出しています。今後は訪問看護と地域の先生方との協力体制を強化し、患者さんの入院治療から在宅療養まで切れ目なく支えていきたいですね。そうやって地域の力を結集し、迫り来る心不全パンデミックに立ち向かっていきたいと考えています」。田中は力強い口調でそう締めくくった。

キュア Cure 病気の おはなし

先生、
教えて!

テーマ

心不全

心臓のポンプの機能が衰え、
ちゃんと働かなくなり、必要な
血液を全身に送れなくなります

高齢者に多く見られる 拡張機能障害による心不全

心臓のポンプには、血液を送り出す「収縮機能」と、全身から戻ってきた血液を取り込む「拡張機能」があります。ひと昔前は、主に収縮機能が弱ることによって心不全が起こるとされていました。しかし、今は心臓(左心室)が硬く、広がりにくくなり、血液が戻りづらくなるために、心不全が起こることもわかってきました。これは「拡張機能障害」といわれるもので、高齢者に多く見られます。

心不全の診断は、血液検査、心エコー検査などを組み合わせて行います。血液検査では、心臓の負担のかかり具合を調べ、心エコー検査では、心肥大があるかどうか、すなわち「拡張機能障害」の有無について確認できま

す。このほか、不整脈が疑われる場合は24時間の心電図、1週間連続のホルター心電図などを行います。

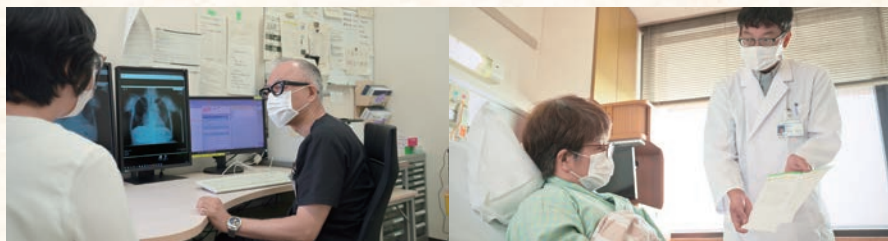
進化のめざましい薬物療法。 心臓を薬でしっかり保護

心不全の治療は薬物療法が基本になります。近年、薬物の進歩はめざましく、診療ガイドラインに基づく標準的治療として4種類の薬が定められていて、素晴らしい4種類という意味を込めて、「ファンタスティック4」と呼ばれていま

す。当院では、患者さんの病状に合わせて、この4種類を組み合わせで適切な処方を行っています。

〈ファンタスティック4〉

- ①βブロッカー(β遮断薬):心臓の負担を軽減する薬
- ②ARNI(アーニ/アンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬):心臓を保護する薬
- ③SGLT2阻害薬:心臓、腎臓を保護する薬
- ④MRA(ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬):心臓を保護する薬



Message

医師からのメッセージ



副院長兼診療部長(内科系)
田中 俊郎

定期的な健診で、早期に心不全を見つけましょう

心不全の症状はむくみや息切れですが、多くの人が「年のせいだから」と放っておいて、気付いたら心不全がかなり進行している場合もあります。また、むくみ、息切れなども、ある程度病状が進んだ段階で出てくるもので、最初は症状が全く現れないことも多くあります。そうした早期心不全を発見するために大切なのは、定期的な健康診断です。たとえば、レントゲンで心臓がちょっと大きくなっていたり、心電図で異常が見つかったり、聴診で心雑音が聞こえたりすると、心臓の病気が疑われ「要精査」になります。しかし、患者さんの中には「要精査」でも症状がないため、そのまま放置される方も結構いらっしゃいます。受診時には、すでにかかなり悪化していることも多く、そうならないためにも定期的な健診と病院受診を心掛けてほしいと思います。

キュア Cure 治療 の おはなし

テーマ

抗がん剤治療

治療の
メリットは？

抗がん剤を飲み薬や注射、
点滴などで投与する治療法。
全身に作用する特徴があります



がん細胞の縮小、進行の抑制、 症状の緩和などが期待できる

抗がん剤治療とは、飲み薬や注射などにより、抗がん剤を投与して行うがんの治療法です。局所的な治療法である手術、放射線療法と異なり、全身に作用する特徴を持ち、効果としては、がん細胞の縮小、進行の抑制、がんの増殖を抑える、がんによる症状の緩和、延命効果などが期待されています。

また、薬物療法にはいくつかの方法があります。従来の抗がん剤を用いた化学療法。がん細胞の増殖に関わるタンパク質や、栄養を運ぶ血管を標的にしてがんを攻撃する分子標的療法。がんの増殖を促進するホルモンの分泌や働きを妨げる内分泌療法（ホ

ルモン療法）。そして免疫本来の力を利用してがんを攻撃する免疫療法などです。

副作用に対する治療も進歩し、 対処方法により軽減も可能

抗がん剤治療には副作用のイメージが強いかもしれませんが、副作用に対する治療法も進歩しています。完全に副作用がなくなるわけではありません

が、副作用として現れる症状を和らげるための支持療法が進化しています。また、ある程度の副作用は予測でき、その対処法によって症状を軽減することも可能です。もし強い副作用が現れた場合は、その症状を抑える治療や、副作用そのものへの治療を並行して行いながら、抗がん剤治療を進めることができます。医師をはじめとする医療スタッフが、しっかりと患者さんを支えていく体制が整っています。



Message

私たちが支援します



薬剤室 副主任
宮本 拓人
(がん薬物療法認定薬剤師)

患者さんのお気持ちを第一に、より良い治療をめざします

当院では、抗がん剤治療を外来と入院のどちらでも受けることができ、患者さんの症状や状態、ご希望、年齢、そしてご家族の状況を考慮して選択できます。治療は医師一人ではなく、看護師をはじめとするさまざまな専門職がチームとなって、患者さん一人一人をしっかりとサポートします。当院には、私を含めて3名のがん薬物療法認定薬剤師が勤務しており、抗がん剤に関する説明や、治療前の副作用チェック、副作用をできるだけ軽減するためのアドバイス、自宅で困ったときの対処法などをお伝えしています。また、患者さんのお気持ちを大切にするため、必要に応じて個室でお話を伺うなど、丁寧な対応を心掛けています。少しでも不安や疑問がありましたら、どうぞ遠慮せず、いつでもご相談ください。



地域医療を支える

新しい力

チカラ

対談企画

初期臨床研修医

X
看護師私たちの
仲間を
ご紹介。

患者さんに寄り添い歩むプロフェッショナルをめざす



2人とも当院で2年目に入りますが、印象に残っている出来事がありますか？

増田 僕は初期臨床研修医2年目で、各診療科と救急外来で勤務しています。その中で感じることは、教科書で学ぶことと医療現場で行うことは、違いがあるということです。患者さんが望んでいた、落ち着いたいただいたりするために、可能な範囲で、その気持ちに寄り添った行為があるということ。救急外来で、多くの患者さんに接していて日々痛感しています。1年目は、そういった医療現場だからこそその対応を学んだ気がします。

稲垣 患者さんに寄り添うことの大切さは、私も強く感じています。以前、がん末期の入院患者さんがいらして、何度もナースコールをされて、「苦しい」っておっしゃるんです。あるとき、「何度も呼んでごめんね。いつも来てくれてありがとう。感謝してるよ」と言われて…。残念ながら次の日にお亡くなりになりました。病室を訪れても、長い時間いたわけではないのですが、少しはお役に立ったような気がします。



これからどのようなプロフェッショナルを目指していきますか？

稲垣 もっと知識を身に付けて、患者さんのためになる行動を、自分から伝えることができる看護師になりたいと思っています。たとえ短い時間の中での関わりでも、必要な情報をきちんと見極めて、自分で対応できるようにキャリアを積んでいきたいですね。増田先生はいかがですか？ もうご自分の専門を決めているんですか？

増田 僕は耳鼻咽喉科に進もうと決めています。一般的にはイメージが持ちにくい診療科かもしれませんが、小児の中耳炎はもちろん、メニエール病をはじめ内科的な管理が必要な病気、高齢者の難聴、CPAP（シーパップ：持続陽圧呼吸療法）や頭頸部手術、がんなど多岐にわたる分野なんです。

稲垣 内科と外科の要素もあるし、対象年齢も幅広いですね。

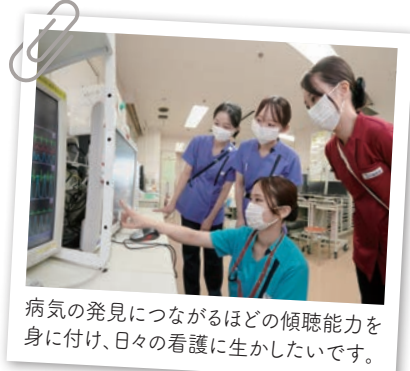
増田 地域に根付き、少しでも患者さんの力になりたいですね。

稲垣 はい。私もそうしたプロフェッショナルを目指します！

増田 一緒に頑張りましょう！



地域医療を担っていく医師を目指して、さまざまな経験を積みたいです。



病気の発見につながるほどの傾聴能力を身に付け、日々の看護に生かしたいです。

初期臨床研修医（2年目）

増田尚人（ますだ なおと）

愛知県刈谷市出身。人の役に立つ仕事をしたい。そう思い医師になろうと決めました。

新人看護師（2年目）

稲垣美咲（いながき みさき）

愛知県安城市出身。家族や知人に何かあったときに役に立てばと、この道を選びました。

こんな言葉知っていますか？ 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 救急外来

今回は
(救急外来)について
学びましょう



初期(一次)・二次・三次の3段階に分かれ、 緊急性の高い事故によるけがや、 病状の急変に対応しています

救急外来とは、事故や病状の急変など、緊急性の高い状況に対応するための外来です。緊急時に迅速かつ適切な医療を受けられる場所として、非常に重要な役割を果たしています。

具体的には、救急外来を設置している病院や診療所は、都道府県知事によって「救急医療機関」として認定されています。この認定は、患者さんの重症度に応じて、以下の3段階に分けられています。①初期(一次)救急医療機関／入院治療の必要がなく、帰宅可能な患者さんへの対応機関(医師会単位で在宅当番医制)

②二次救急医療機関／入院治療を必要とする重症患者への対応機関(病院群輪番方式と共同利用型病院方式) ③三次救急医療機関／二次救急医療機関では対応できない高度な処置が必要な重篤患者への対応機関(救命救急センター)です。

地域の救急医療体制は、診療所、医師会、病院、救急隊が一丸となって支えています。特に高齢化が進む現代では、救急患者が増加することが予測されており、皆さんの適切な利用がますます重要になってきています。



西尾市民病院では

救急医療は地域の資産。皆さんと一緒に守り続けていきたいと考えます

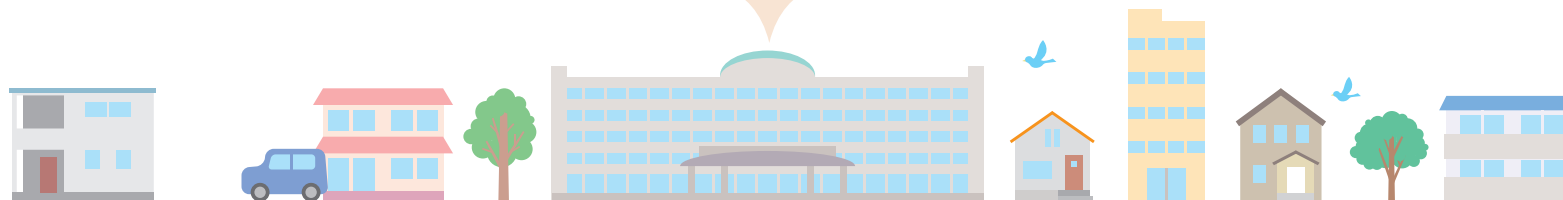
西尾市民病院は、二次救急病院として地域の重要な役割を担っています。主に入院が必要な患者さんを対象としていますが、より高度な医療が求められる場合には、三次救急医療機関への紹介や搬送も行っています。このため、内科と外科の医師各1名、研修医、看護師をはじめとする医療スタッフが24時間体制で救急外来に対応しています。

救急車で搬送件数は年間3,000件から4,000件に上り、年々増加しています。搬送される患者さんの中では、高齢者の転倒による骨折が多く見られます。内科的には、肺炎や新型コロナウイルスによる発熱の患者さんが多い傾向にあります。特に寒い時期には、急性心筋梗塞

や心不全の患者さんも一定数搬送されてきます。

救急医療において大切なのは、助けられる命を助けるために、地域の皆さん一人一人が、救急を適切に利用していただくことです。軽症で救急車を呼ばれる方がいる一方で、くも膜下出血や心筋梗塞を発症しながらも、自力で救急外来に来られる方もいます。万が一の際に、ご自身で歩けるかどうか、頼れる家族が近くにいるかどうかなどを普段から考えていただき、地域の貴重な資源である救急医療を、皆さんと共に守り続けていければと思います。

救急外来 副主任
村田悟生(救急看護認定看護師)

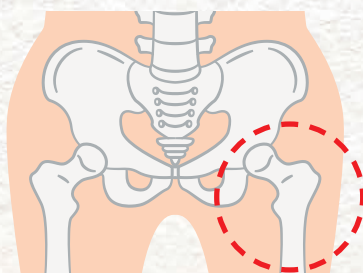


高齢者骨折センター開設のお知らせ

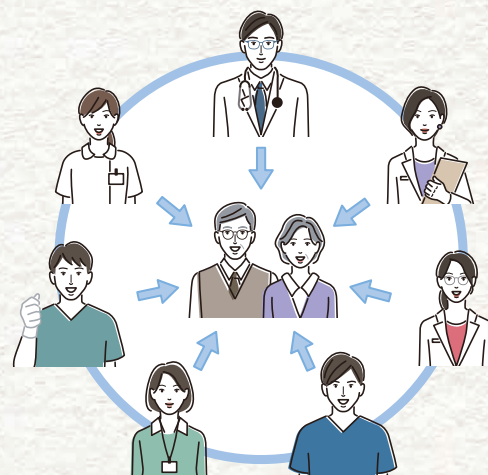
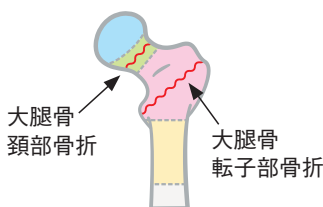
西尾市民病院では、2024年4月から「高齢者骨折センター」を開設し、骨折リエゾンサービス(FLS)を開始しました。このサービスでは、骨粗しょう症治療の開始や継続を重視し、整形外科医をはじめ、多職種が連携して骨折・二次骨折を予防し、患者さんの生活の質向上を図っています。特に大腿骨近位部骨折の患者さんは、寝たきりになる可能性が高いため、手術と並行して骨粗しょう症治療の必要性和重要性を説明し、治療を行います。また、当院だけでなく地域のかかりつけ医や介護施設と連携しながら、この地域の骨折予防に努めています。

高齢者に多い「大腿骨近位部骨折」とは？

大腿骨のうち、脚の付け根や股関節に近い部分が骨折することです。骨が弱くなっている高齢者が転倒等することによって発生します。



大腿骨近位部骨折



地域医療デジタル掲示板 広告募集

企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

西尾市民病院、市役所設置の
大型モニターで市民の皆さんに
情報をお届けできます。

※掲載事項および内容には、審査がございます。



お問い合わせ・
お申し込みは
こちらから



合同会社プロジェクトリンク事務局
info@project-linked.com

看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先 西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報WEBマガジン



こちらから



西尾市民病院からの最新TOPICS
や検査・治療・ケアに関する情報などをお届けし
ます。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウント
を開設しました。QRコードから「友だち追加」を
お願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171 (代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>



9 月号 No.19

発行責任者/院長 榎田 政隆

発行/西尾市民病院

記事提供/中日新聞広告局

編集協力/プロジェクトリンク事務局

発行日/2024年0月00日